

小笠原諸島海域初記録のエクレアナマコ *Holothuria* (*Halodeima*) *nigralutea* (楯手目：クロナマコ科)

成瀬 貫 (琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設)
藤田 喜久 (沖縄県立芸術大学)
佐々木哲朗 (小笠原自然文化研究所)
山田 鉄也 (ダイビングサービス K A I Z I N)

要 約

小笠原諸島父島の二見湾湾口部に位置する口之瀬沖水深 46 m より、エクレアナマコ 1 個体が発見されたので報告する。これは本種の小笠原諸島初記録であり、また北半球においては沖縄島に次ぐ記録である。

I. はじめに

現在、東京都は小笠原諸島の海域の保全管理に資するため、各島嶼海域に生息する海洋生物の現況把握を目的とした調査を実施している。著者らは、2014年3月に実施された調査の過程において、棘皮動物門ナマコ綱楯手目クロナマコ科のエクレアナマコ *Holothuria* (*Halodeima*) *nigralutea* O'Loughlin, in O'Loughlin, Paulay, Vandenspiegel & Samyn, 2007 の分布を確認したので報告する。なお、本報告にて扱った標本は琉球大学資料館 (風樹館; RUMF) に収蔵されている。

II. 記録

Family Holothuriidae Ludwig, 1894

Genus *Holothuria* Linnaeus, 1767

Holothuria (*Halodeima*) *nigralutea* O'Loughlin, in O'Loughlin, Paulay, Vandenspiegel & Samyn, 2007

エクレアナマコ

1. 供試標本

RUMF-ZE-1406, 1 個体, 父島二見湾口之瀬, 水深 46 m, 採集成瀬貫, 2014年3月20日.

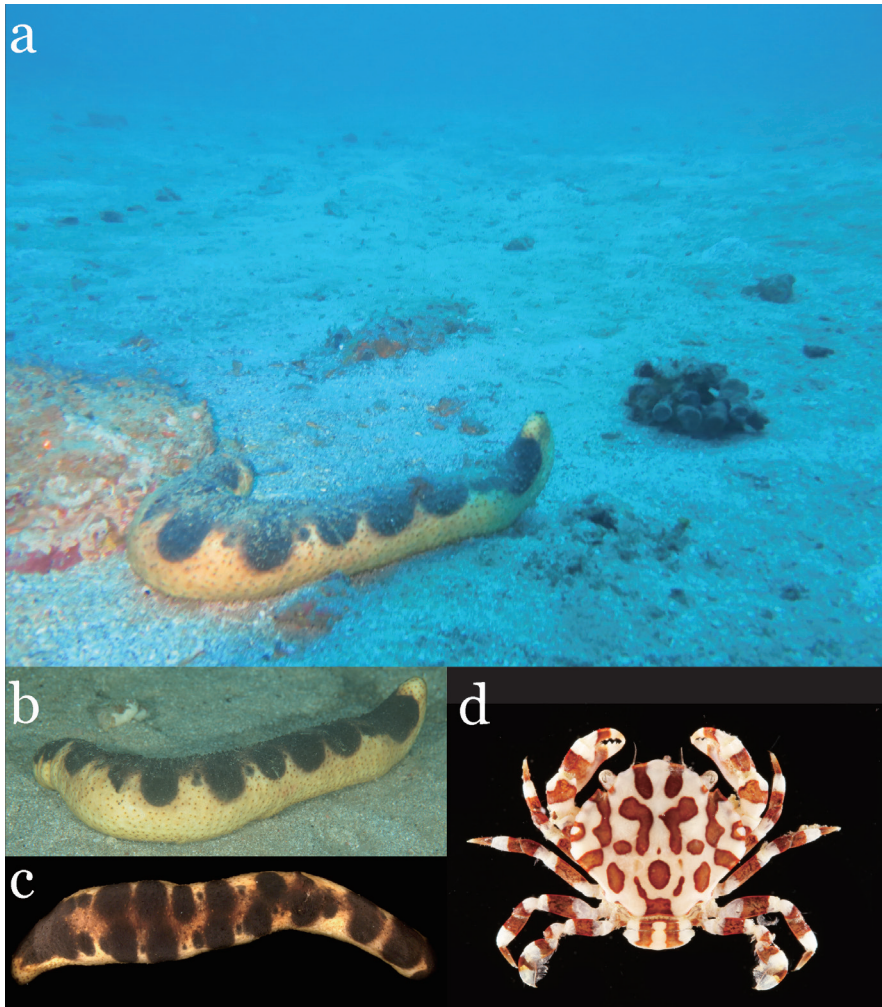


図 1 エクレアナマコ (RUMF-ZE-1406) と寄居していたナマコマルガザミ (RUMF-ZC-3674).

a, エクレアナマコとハビタット; エクレアナマコの生態写真(b)と標本写真(c); d, ナマコマルガザミ.

2. 特徴

採集時に長さ約 50cm だった本標本は、地色が黄色であり、背面には黒い斑紋が二列に不規則に並び、かつ腹面には一本の黒い帯が走る、という特徴的な色彩から、エクレアナマコと容易に同定できる。

3. 生態的知見

今回発見されたエクレアナマコは、二見湾湾口部に位置する口之瀬南西の水深 46m に生息していた。その生息地の底質は、砂地にサンゴ由来の石灰岩が散在していた。

また本標本の採集時には気付かなかったが、実験室に持ち帰った後に写真撮影をしていたところ、ワタリガニ科のナマコマルガザミ *Lissocarcinus orbicularis* Dana, 1852 (RUMF-ZC-3674, 雄, 甲長 7.2 mm, 甲幅 8.1 mm) が寄居していた。これまでにエクレアナマコから共生生物の報告はなされておらず、本報告は、ナマコマルガザミの新たな宿主記録となる。

4. 備考

エクレアナマコは、Western Australia の Point Cloates 沖 (22.86° S, 113.51° E) 及び Dampier 沖 (19.79° S, 115.47° E) の水深 90 ~ 100m より採集・記載された (O'Loughlin *et al.*, 2007)。その後、Uyeno *et al.* (2011) は、沖縄島の真栄田岬と残波岬沖の水深 40 ~ 50 m から採集した標本を基に本種を記録した。その報告により一般のレジャーダイバーにも本種の存在が知られることになり、沖縄島西海岸沖より本種の発見が相次いでなされ、インターネット上に写真とともに掲載されている。Uyeno *et al.* (2011) はさらに、Queensland Museum に収蔵されていたオーストラリア北東部の Barnett Patches (18° 04' S, 146° 56' E) の水深 45m より得られた標本もエクレアナマコと同定・記録している。

このように、本種は、インド-西太平洋の熱帯域に広く分布している可能性が指摘されているが (Uyeno *et al.*, 2011)、生息水深が 40 m ~ 100 m と深いため、過去の発見例が少ないと考えられる。本報告で小笠原諸島から初めて確認された標本も、父島沖の水深 46m で確認された。今回の調査は、SCUBA 潜水で実施しており、本種の生息水深帯において広範囲の分布調査は困難であったため、周辺に他個体が生息しているかは確認できなかった。今後、リブリーザーや ROV などの調査手法を用いた調査を実施することができれば、本種の生息状況をより詳細に解明できるだけでなく、未記載種や小笠原諸島初記録種など、さらなる重要な発見が期待されることが考えられる。

謝辞

小笠原自然文化研究所の栗原達郎氏には現地調査に同行頂きました。小笠原島漁業協同組合の菊池勝貴氏、稲垣直彦氏、佐藤匡男氏、新島信行氏、山之内司氏には、調査計画および船舶による現地調査においてご協力頂きました。以上の諸氏に心より感謝申し上げます。また、本論文は東京都小笠原支庁が実施した平成 25 年度小笠原諸島海域生態調査の成果のひとつである。業務を担当された東京都小笠原支庁の増山剛氏に御礼申し上げます。

文 献

- O'Loughlin PM, Paulay G, Vandenspiegel D & Samyn Y (2007) New *Holothuria* species from Australia (Echinodermata: Holothuroidea: Holothuriidae), with comments on the origin of deep and cool holothuriids. *Memoirs of Museum Victoria* 64: 35-52.
- Uyeno D, Michonneau F, Paulay G & Naruse T (2011) New record of the sea cucumber, *Holothuria (Halodeima) nigralutea* (Aspidochirotida: Holothuriidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. *Biological Magazine, Okinawa* 49: 103-107.